

世界史探究

世界史探究

〔I〕 次の文章を読み、後の問（1～6）に答えよ。

紀元前7世紀以降、オリエントには四つの王国が分立していたが、これを再統一したのはペルシア人のアケメネス（アカイメネス）朝であった。前6世紀のキュロス2世の時代に自立したアケメネス朝は、（ 1 ）1世の治世に領土を拡大し、エーゲ海沿岸からインド北部に至る大帝國を築いた。アケメネス朝は、広大な領土を治めるために、①都市や交通網を整備するとともにさまざまな制度を設けた。宗教では、善悪二元論をとる（ 2 ）教がさかんとなった。アケメネス朝は、ペルシア戦争に敗れ、エジプトが独立するなど混乱が生じ、前4世紀には（ 1 ）3世がアレクサンドロスに敗れ、滅ぼされた。

アレクサンドロスの死後、ペルシアの地はセレウコス朝シリアに支配されたが、イラン高原北東部の（ 3 ）ではアルサケスがセレウコス朝から独立し、やがてメソポタミアにまで勢力を拡大した。アレクサンドロスの遠征以降にあらわれたこれらの国家には多くのギリシア人がおり、彼らがオリエント世界に（ 4 ）文化と呼ばれるギリシア風の文化を広めた。（ 3 ）は②東西交易路をおさえて繁栄したが、ローマ帝国の攻勢を受けて弱体化し、3世紀、ササン朝ペルシアに滅ぼされた。

ササン朝は、西ではシリアでローマ帝国軍を破り、東ではインド北部に支配を広げた。6世紀の（ 5 ）1世の時代には、皇帝ユスティニアヌスのローマ帝国に対抗した。東西に領土が拡大したこともあってインド文化やギリシア文化の影響を受けつつ、ペルシアの伝統も重視された。（ 2 ）教は国教とされ、『アヴェスター』が経典として編纂された。また、③キリスト教もササン朝領内で信徒を獲得したが、3世紀におこったマニ教は弾圧された。

ササン朝は、ビザンツ帝国との抗争や宮廷内の争いなどにより衰えた。7世紀にアラビア半島でイスラームがおこり各地に勢力を拡大すると、④ササン朝はイスラーム勢力に敗れ、7世紀半ばに滅亡した。⑤これ以降、ペルシアはイスラーム圏に組みこまれることとなった。

問1 空欄（ 1 ）～（ 5 ）にあてはまる語句を答えよ。

問2 下線部①について、アケメネス朝の都市・交通網・制度に関する次のア～エのうち、誤っているものを一つ選び、記号で答えよ。

- ア スサに行政の中心を置くとともに、祭儀を行う場としてペルセポリスが建設された。
- イ 領土を20の州に分け、それぞれにアミールと呼ばれる総督を任命した。
- ウ 主要幹線道路として「王の道」を設け、駅伝制で各地を結んだ。
- エ 金貨・銀貨を発行し、フェニキア人などの海上交易を保護した。

問3 下線部②について、中央アジアのオアシス都市などを経由し、漢とローマとの間を結んだこの交易路をなんというか答えよ。

問4 下線部③について、これらの宗教について述べた次の文の下線部 a と b の正誤の組み合わせとして正しいものを、下のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ササン朝で信仰が許された a アタナシウス派は、さらに中国に伝わり景教と呼ばれた。 また、b マニ教も中国に伝わり、回教と呼ばれた。

- ア a—正 b—正 イ a—正 b—誤
- ウ a—誤 b—正 エ a—誤 b—誤

問5 下線部④について、642年におこったササン朝とイスラーム勢力との戦いをなんというか、下のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

- ア アンカラの戦い イ タラス河畔の戦い
- ウ ニハーヴァンドの戦い エ トゥール・ボワティエ間の戦い

問6 下線部⑤について、その後のイスラーム世界ではペルシア人が活躍したりペルシア語が重視されたりした。これらについて述べた次の文の下線部 a と b の正誤の組み合わせとして正しいものを、下のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

9世紀後半以降、ペルシア語の詩がさかんに作られるようになり、a ウマル＝ハイヤームは四行詩を集めた『ルバイヤート』を著した。 また、イスラームが伝わったインドでは、b 13世紀以降のデリー・スルタン朝から、16世紀に成立したムガル帝国にかけて、ペルシア語が公用語とされた。

- ア a—正 b—正 イ a—正 b—誤
- ウ a—誤 b—正 エ a—誤 b—誤

〔Ⅱ〕 次の文章を読み、後の問（1～4）に答えよ。

世界では、他から影響を受けずに独自に文明が生まれた地域が四か所あると考えられている。旧大陸のメソポタミアと中国、そして新大陸のメソアメリカとアンデスである。

現在のメキシコを中心とするメソアメリカでは、紀元前2000年紀の終わり頃までに文明が生まれた。その最初期のものが、メキシコ湾岸で栄えた（ 1 ）文明であり、頭部のみの巨石人頭像が特徴的である。その後、紀元前後頃、メキシコ中央高原に巨大なピラミッドが立ち並ぶ（ 2 ）文明が発展した。一方、東部のユカタン半島では、精緻な絵文字や暦が発明されたことで知られる（ 3 ）文明の都市が盛衰した。この地域に最後に登場したのが、湖上都市テノチティトランを首都とした（ 4 ）王国である。

アンデス地域では、メソアメリカよりいちはやく紀元前3000年頃都市が誕生する。その後大小様々な文明が盛衰するが、15世紀に現れるのがクスコを首都とする①（ 5 ）帝国である。

両地域とも、16世紀に入ってスペイン人の征服者により征服された。征服後には②エンコミエンダ制が導入されたが、これは植民者による先住民の酷使につながり、③鉱山などでの過酷な強制労働と伝染病の蔓延によって多くの先住民を死に至らしめることになった。このため、ドミニコ修道会修道士（ 6 ）らの聖職者はスペイン国王にこの制度の廃止を訴えた。

18世紀末になると、ヨーロッパ本国の王政下に長く置かれていたラテンアメリカ諸国

で、独立運動が活発化し始める。トゥサン＝ルベルチュールの指導により1804年にハイチがいちはやく独立したのに続き、ボリバルは大コロンビアなどを独立させた。しかしながら、独立運動や独立後の指導者のほとんどは現地生まれの白人である（ 7 ）や、（ 7 ）と先住民との間に生まれた（ 8 ）であり、先住民が置かれた過酷な状況は変わらなかった。

問1 空欄（ 1 ）～（ 8 ）にあてはまる語句を答えよ。

問2 下線部①について、この国では文字は発明されなかったが、縄の結び目でさまざまな情報を記録する道具が用いられた。この道具の名称を答えよ。

問3 下線部②について、どのような制度か40字以内で説明せよ。

問4 下線部③について、ボリビアで発見された銀山の名称を答えよ。

〔Ⅲ〕 次の文章を読み、後の問（1～6）に答えよ。

（ 1 ）は、1368年に南京で皇帝となり明を建国すると、元の勢力を北方へと追いやり、中国を支配した。（ 1 ）は、中央集権的な政治体制を整えるとともに、儒教の中でも特に朱子学の理念に基づく政策を行った。統治を村落の末端にまで及ぼすために、農民を一定戸数ごとに組織する（ 2 ）を施行した。また、（ 3 ）を出して民衆に道徳の重視を呼びかけた。

建国間もない明は、沿海地域の治安維持を目的として人びとが海に出ることを禁止する海禁政策をとった。その後、朝鮮による取り締まりもあり、沿海地域の治安は安定化していった。朝鮮は明に朝貢し、絹織物や①陶磁器を入手するとともに、学問・思想の面でも明の影響を受けた。朝鮮は朱子学をとりいれて内政の改革を行った。一方で②朝鮮独自の文化の発展も見られた。

（ 1 ）の子である（ 4 ）が帝位につくと、朱子学重視の姿勢を継承し、

『（ 5 ）』などを編纂させた。対外政策については、（ 4 ）は北方の遊牧民勢力に攻勢を強めた。しかし、（ 4 ）の死後、③15世紀半ばにはオイラトが中国に侵入した。これ以降、明は北方遊牧民勢力に対して守勢に回ることとなった。明は、朝貢関係を結んだ相手に貿易を認めるという朝貢貿易を方針としており、北方の遊牧民勢力に対しては貿易の回数・規模を制限していた。これらの拡大を求めてオイラトは明に侵攻したのである。しかしその後も明は朝貢貿易という基本方針を変えることはなかった。

この状況は、16世紀に入ると大きく変わることとなった。要因の一つはヨーロッパ勢力のアジア進出であった。貿易の機会を求めて（ 6 ）が南アジア・東南アジアに拠点を築き、中国に来航し、1567年には明から（ 7 ）の居住権を認められた。（ 6 ）などのヨーロッパ勢力の参入により、海洋貿易をめぐる競争は激化した。一方、朝貢貿易は海洋貿易にも適用され、海禁政策と合わせて民間商人から貿易の機会を奪っていた。東南沿海地域ではこうした政策に反発した人々による密貿易が横行した。

貿易に対する需要は北方でも高まった。タタール（モンゴル）の（ 8 ）＝ハンによる侵攻も、貿易の拡大を明に認めさせるための圧力という意味があった。これらの状況に苦慮した明は、1567年には沿海地域の海禁を緩め、また1571年にはタタールと和解して貿易を認めた。こうして、朝貢貿易体制は変化を余儀なくされたのであった。

辺境問題および貿易の活性化は、中国内部の経済をも変化させた。北方遊牧民に備えるため、明は多くの軍隊を北辺に駐屯させていた。北辺へ軍糧を供給する役割を果たしたのが、（ 9 ）などの特権商人であった。また、貿易により中国に多くの銀が流入すると、明の財政は銀を中心としたものになっていった。複雑化していた土地税・労役負担を銀で計算し納入させる（ 10 ）が、16世紀半ばからはじまった。

一方で、銀の流入による経済の活性化は富裕層を生み、④彼らを受け手とした文化の発展をもたらした。また、⑤中国を訪れたイエズス会などの宣教師と中国の知識人との文化・学術交流もみられた。

問1 空欄（ 1 ）～（ 10 ）にあてはまる語句を【語群】から選び、記号で答えよ。

【語群】

ア アルタン イ ポルトガル ウ 地丁銀 エ 永楽帝
オ マカオ カ 行商（公行） キ チンギス ク 朱元璋

ケ 四書大全	コ 律令格式	サ 雍正帝	シ 里甲制
ス スペイン	セ 一条鞭法	ソ 四庫全書	タ 徽州（新安）商人
チ 六論	ツ 租調庸制	テ 朱全忠	ト 香港

問2 下線部①について、赤絵や染付と呼ばれる陶磁器の代表的な産地となった江西省の町の名前を答えよ。

問3 下線部②について、15世紀における朝鮮の文化について述べた次の文の下線部aとbの正誤の組み合わせとして正しいものを、下のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

印刷・出版の面では、a中国から木版印刷の技術が導入され、王朝の歴史の編纂が進んだ。また、b朝鮮語の発音を表すための文字である「訓民正音」が考案された。

ア a—正 b—正	イ a—正 b—誤
ウ a—誤 b—正	エ a—誤 b—誤

問4 下線部③について、このときの状況について述べた次の文の下線部aとbの正誤の組み合わせとして正しいものを、下のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

aオイラトのエセンが軍を率い、当時の明の皇帝を捕虜にするという事件が起きた。守備を固めるために、明はb北方辺境地帯に節度使を置いた。

ア a—正 b—正	イ a—正 b—誤
ウ a—誤 b—正	エ a—誤 b—誤

問5 下線部④について、文化の発展の一つに小説の流行があげられる。明代の小説として誤っているものを、下のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア 『三国志演義』	イ 『西遊記』	ウ 『水滸伝』	エ 『天工開物』
-----------	---------	---------	----------

問6 下線部⑤について、これについて述べた次の文の下線部aとbの正誤の組み合わせとして正しいものを、下のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

aイタリア人のマテオ=リッチ（利瑪竇）は、徐光啓と協力して幾何学を中国に紹介した。また、b徐光啓は『農政全書』という農業書を著したが、これにも西洋の技術をふまえた記述がある。

ア a—正 b—正	イ a—正 b—誤
ウ a—誤 b—正	エ a—誤 b—誤

〔Ⅳ〕 次の文章を読み、後の問（1～7）に答えよ。

①1914年6月28日に、（ 1 ）の帝位後継者フランツ・フェルディナント大公夫妻が暗殺された事件を契機として勃発した第一次世界大戦は、②ヨーロッパを中心とする列強の利害をめぐって発生しながらも、世界中を巻き込んだ人類史上初めての戦争になった。また、戦争の途中、あるいはその結果として、③ドイツや④ロシア、そして（ 1 ）で帝政が崩壊した点でも、20世紀の世界に大きな影響を与えるものであった。

この戦争が数年にわたる史上初の世界規模の悲惨なものであったがゆえに、画期的な出来事も生まれた。恒常的な国際的平和機関が初めて設置されたのである。戦争が終結した後、1919年1月に（ 2 ）講和会議が開かれ、戦後の枠組み作りが議論された。その基礎となったのは、米大統領ウィルソンが1918年に発表した十四か条の平和原則であった。1919年6月に⑤（ 3 ）条約が締結され、この結果、敗戦国側の主力を成していたドイツは（ 4 ）のフランスへの返還や（ 5 ）の非武装化に加え、膨大な賠償金の支払いなど、過酷な制裁を受けることになった。こうして生まれた新しい国際秩序を象徴するのが、国際平和のための史上初の国際機関である⑥国際連盟である。

問1 空欄（ 1 ）～（ 5 ）にあてはまる語句を答えよ。

問2 下線部①について、この事件の名称を答えよ。

問3 下線部②について、ヨーロッパの列強は、イギリス・フランス・ロシアから成る陣営と、ドイツ・（ 1 ）から成る陣営に分かれて戦うが、両陣営の名称をそれぞれ答えよ。

問4 下線部③について、戦後この国では民主主義的憲法が採用され、共和国が成立するが、その共和国の名称を答えよ。

問5 下線部④について、この国では戦時中に革命がおこり、戦後の1922年に新たな組織の国家が成立するが、その名称を答えよ。

問6 下線部⑤について、戦勝国陣営が（ 1 ）と結んだ条約の名称を答えよ。

問7 下線部⑥について、この機構の本部が置かれている都市の名称及び、常任理事国4か国の国名を答えよ。